

基軸 3 多摩産材をはじめとする国産木材の需要拡大

- 多摩産材の生産量は全国的にみれば小規模であり、大消費地東京の木材需要に単独で対応することは困難です。
- 一方で、日本全国には約 1 千万 ha の人工林があり、東京における木材需要の拡大に期待が寄せられています。
- このような状況を踏まえ、全国各地と連携し、非住宅分野などにおける木材需要の拡大を図ることで、国内の林業・木材産業の振興に貢献していきます。また、木材需要全体の底上げを図ることで、多摩産材の需要拡大につなげていきます。
- 国産木材を利用することの意義や利点について普及啓発を推進し、木材や森林に親しむ心を幅広い世代に育てていきます。



基軸 3 施策の体系

施策 3-1 新たな分野における木材需要の拡大

- ア 非住宅建築等における木材需要の拡大
- イ 木造化や木質化に精通した建築士の養成

施策 3-2 木育活動の推進

- ア 子どもたちへの木育の推進
- イ 大人たちへの木育の推進

施策 3-1 新たな分野における木材需要の拡大

なぜ取組が必要か

- ◆ 全国的人工林の多くが利用期を迎え、国産木材の供給量が増加傾向にある中、木材の一大消費地である東京に対して、木材需要の拡大を牽引する役割が求められています。

2030 年度に向けて

- ▶ 木材を活用した塀をはじめ、中・高層建築や非住宅建築など、これまで木材があまり使われてこなかった分野において国産木材の需要拡大を図り、全国の林業振興と森林循環の促進につなげます。

具体的取組

ア 非住宅建築等における木材需要の拡大

- C L T や木質耐火部材等を活用した中・大規模の木造建築物については、事例の蓄積が必要であることから、これらの設計に取り組む事業者等の支援などにより、都市部の木材需要の拡大を図り、多摩地域をはじめとする全国の森林循環の促進につなげます。
- 木塀は倒壊の恐れがあるコンクリートブロック塀を代替し、景観向上のほか地域の安全向上にも貢献することから、都の関連施設において率先的に木塀の設置を進めます。加えて、施設の外構を木質化する区市町村、民間事業者等を支援し、木の街並みの創出を図ります。
- テレワークの普及とともに、オフィスには社員のコミュニケーションを活性化する機能が一層求められると考えられることから、木材や木造建築が人にもたらす生理的・心理的な効果・効能について、科学的知見を収集し企業等に P R するとともに、オフィス等の内装において、国産木材の利用拡大を図る取組について検討します。
- 人口減少や新型コロナの感染拡大により経済社会活動の縮小が懸念される中、市場ニーズの変化を的確に捉え、住宅の構造材のほか、内装、塀をはじめとする外構等において、多摩産材をはじめとする国産木材の利用拡大を図る取組について検討します。（再掲）
- 木材需要の拡大を目指す全国規模の連携に積極的に参加します。また、MOCTION、モクコレ【資料 3-14】などを活用し、集客効果の高い都市部において全国の木材を P R します。
- 国産木材の利用が持続可能な社会の形成や地球環境の保全に貢献することについて、普及啓発を行います。

イ 木造化や木質化に精通した建築士の養成

- 大手総合建設会社、建築設計事務所、建築系の大学が数多く集まる東京において、木造建築の先進的な事例から技術やノウハウを学ぶ研修会を開催し、木造建築物の設計・提案ができる建築士の養成を図ります。
- 建築士や建築・林業系の学生を対象に、林業の現地を視察する機会を提供することで、木造の材料や構造に関する知見はもとより、木材利用の意義や林業の現状についても建築士の理解促進を図ります。

▶ 資料 3-14 全国各地との連携による木材製品展示商談会

「WOOD コレクション（モクコレ）」は、東京をはじめとする全国各地の国産木材を活用した建材や家具などの木材製品展示商談会です。



- 令和元年度は、これまでで最多の 41 都道府県から 268 事業者が参加しました。
※令和 2 年度は東京 2020 大会の延期の影響を受けて中止。
- メインステージでは、著名な建築家や学識経験者によるセミナーを開催しました。



全国各地の事業者が出展



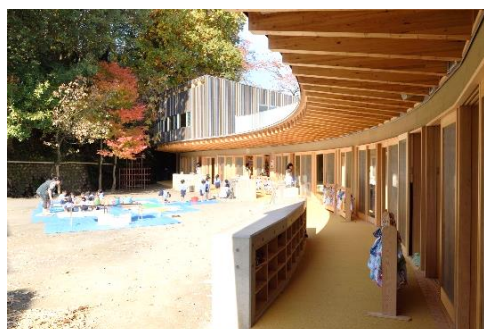
著名な建築家や学識経験者によるセミナー

- 「ウッドシティ TOKYO モデル建築賞」（大都市東京において木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物又は木質空間を表彰するコンクール）の表彰式と受賞作品の紹介も行いました。

■ 最優秀賞：柳小路南角 やなぎこうじのみみかど（世田谷区内）



■ 優秀賞：日野わかかさ幼稚園



■ 優秀賞：神田明神文化交流館 EDOCCO

→写真 コラム（54 頁）

施策 3-2 木育活動の推進

なぜ取組が必要か

- ◆ 次代を担う子どもたちに木材や森林に親しむ心を育み、子どもたちの心身の健やかな成長にも貢献する木育活動【資料 3-15】の更なる推進が求められています。

2030 年度に向けて

- ▶ 子どもたちが利用する施設において国産木材の利用を促進し、森林を守り育てていくことの大切さや、森林整備を担う林業の存在について、幅広い世代の理解を深めていきます。

具体的取組

ア 子どもたちへの木育の推進

- 多摩地域の森林体験や木工教室など、保育園や団体等が行う木育活動を支援します。
- 木質の空間がもたらす生理的・心理的な効果・効能は、強い感受性を持つ幼少期の子どもの健やかな成長に貢献すると考えられることから、子どもが利用する施設において、内装や外構等の木質化を支援します。
- 「都民の城（仮称）改修基本計画」を踏まえ、都市部において、多摩産材をはじめとする国産木材の P R を強化するとともに、木育を体験できる施設の整備を進めます。（再掲）
- 国内の森林・林業に関する学習は、主に小学校の社会科で取り扱われることから、学校に対して、講師となる専門家を派遣するとともに教材の提供等を行うことで、木育学習に協力します。

イ 大人たちへの木育の推進

- 子どもたちへの木育を広めるには、日常的に子どもに接する周りの大人の理解が不可欠であることから、木育が、子どもの健やかな成長につながることについて、教員や保護者に P R します。
- 教員や保護者が、多摩地域の森林・林業の現場を訪れる機会を提供することで、森林・林業の現状について、大人たちの理解促進を図ります。



小学校における森林・林業学習への協力



教員を対象にした森林環境教育セミナー

▶ 資料 3-15 木育とは

木育とは、子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて、木材への親しみや木の文化への理解を深め、材料としての木材の良さや、その利用の意義を学んでもらうための活動です。

五感で森林・林業を学ぶ

● 多摩地域の森林・林業見学



森を大切に育てる人がいるお陰で、良い木材が生まれるんだね

● 製材所等の見学



森から伐り出された木は、こうやって木材になっていくんだね

木材に親しむ

